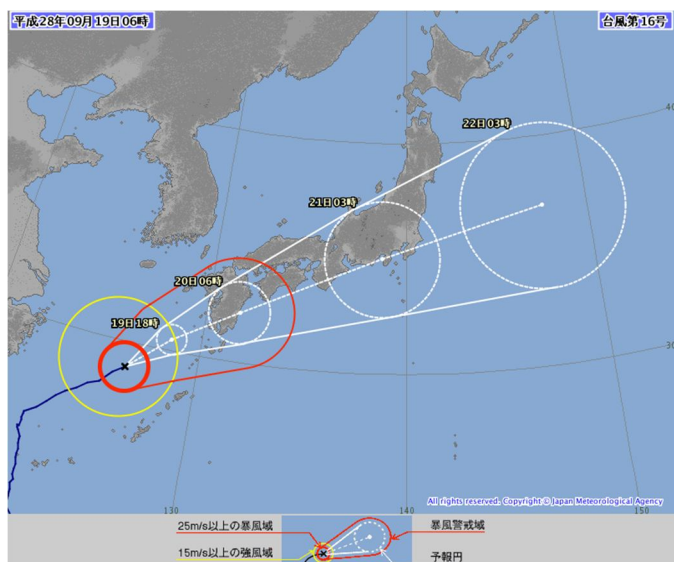


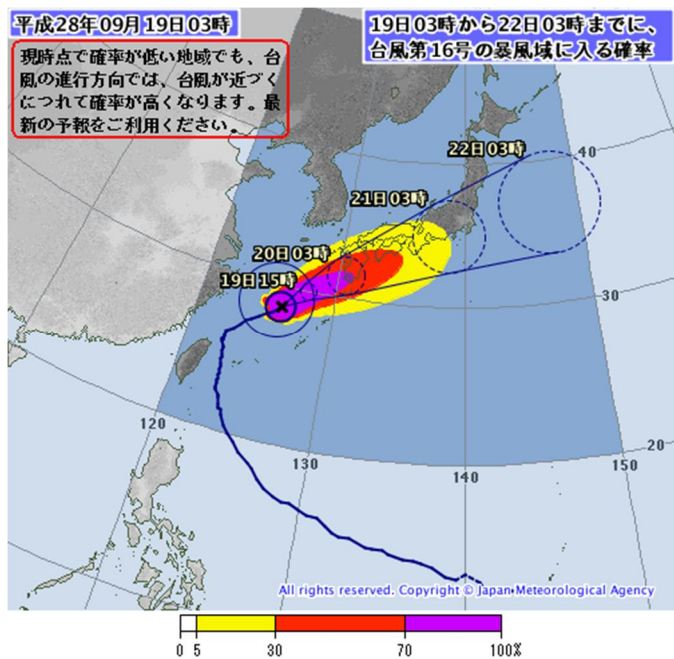
## 「台風16号を教材化する(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

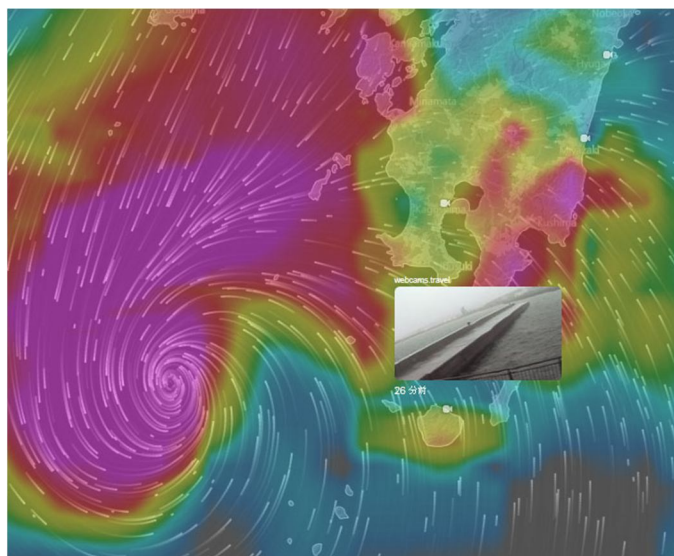
一般の人が台風の進路を予想するには、気象庁が数時間ごとに発表する「台風進路予想図」が一番頼りになるだろう。これは新聞にも載っているし、子どもたちが集めてくる台風の情報の中にもよくある図だ。



この図を見ると、台風16号は「台風の優等生」と言える。教科書に載っている通りに、東寄りに進路を変え、しかも、足摺岬・室戸岬・潮岬・御前崎・石廊崎などの「台風銀座」を忠実に通過しようとしている。図を見ると、台風そのものが拡大(発達)してゆくように見えるが、そうではない。円は「台風を中心の位置予想」ということを、子どもたちにも伝えたい。



実は、気象庁の台風進路予想図にはバリエーションが左下のような、「時系列による暴風圏突入の確率」という図もある。単純な針路予報よりも、より現実味があってわかりやすい。しかし、気象庁のHPからこの図にまでたどりつける人は稀だろう。



上図は、民間の気象情報提供システム「Windyty」の画像である。19日18時の台風16号の中心付近の画像だ。雨の強さに加えて、「動く風の粒子」で、風向や風速が視覚的にわかるようになっている。地図上のカメラをクリックすると、現在の現地の画像も見られる。5日先までの予想も可能だ。下図は20日午前6時の予想である。東京は激しい雨になりそうだ。

